

契丹文字接尾語表(『慶陵』)考(2)

吉池孝一

3.2. 「02. 伏 nu」

伏 nu と結び付く語幹は次のとおり。

010. 𠂔𠂔 C : 𠂔𠂔伏 C

注. 𠂔𠂔 C は既出。伏 nu は本表によると属格語尾 𠂔 ni とほぼ補い合う分布を示すが語幹 𠂔𠂔 C のみは 𠂔 と 伏 の両者と結び付く。なお呉英喆 2007 は 伏 no 「領格」(属格)とする。

011. 𠂔 ACD : 𠂔伏 AC

注. 『集録』は 𠂔 を七と積す。『彙輯』は 𠂔 を七、𠂔伏 A(7-14)を四海の海と積す。

012. 𠂔 AD : 𠂔伏 C

注. 原資料によると、𠂔(9)ABD である。𠂔伏 C(11-7)は2原字であるが『研究』は3原字の一𠂔伏とする。これは『研究』の誤認であろう。『集録』は 𠂔 を太・大と積す。『彙輯』は 𠂔 を北、𠂔伏も北と積す。

013. 𠂔化 CD : 𠂔化伏 ACD

注. 『彙輯』は 𠂔化 を左院の院・上輩・上天の上、𠂔化伏 C(24-9)を院と積す。

060. -- : 𠂔及雨𠂔伏 D

062. -- : 雨子𠂔伏 C

072. 𠂔 ABCD : 𠂔𠂔伏 C

付加成分-𠂔-

注. 語幹と語尾の間に他の原字が挿入されているものを同列に配する。これを付加成分として抽出し提示する。以下同様。

085. -- : 化𠂔伏 C

090. -- : 𠂔𠂔伏 ABD

注. 𠂔𠂔(58)伏 ABD とあるが原資料によると A にこの語はない。𠂔𠂔(140)伏(A30-13)の誤認であろう。

093. -- : 𠂔𠂔伏 B

注: 𠂔 を本「接尾語表」は全て下部を「マ」ではなく「ヌ」とする。A と B は両者を区別するが、C と D には「ヌ」とするものはない。本表は下部を「ヌ」とする原字を正字とみなしたのである。以下「ヌ」とする原字は全て 𠂔 で表記する。

105. -- : 𠂔𠂔伏 B

109. (𠂔𠂔 B) : 𠂔𠂔𠂔伏 A

注: 原資料によると、𠂔𠂔 B と 𠂔𠂔𠂔伏 A は共に無い。

111. 𠄎安 BC : 𠄎安𠄎伏 B

注：語幹𠄎安 BC とあるが、原資料によると C は無い。

122. 𠄎𠄎【𠄎】 A : 𠄎𠄎【𠄎】𠄎伏 B

125. 𠄎冬 ABC : 𠄎冬𠄎伏 B

注。『彙輯』は𠄎冬を又と積す。

126. 一 : 𠄎𠄎【𠄎】𠄎伏 BC

注：原資料によると、B は𠄎 73 で C は𠄎 69 とも見えるが、ともに𠄎 69 であろう。

147. 一 : 𠄎𠄎𠄎伏 D

注。『彙輯』は𠄎𠄎𠄎伏を吐兒山於權厝の厝と積す。

3.3. 「03. 𠄎 du」

𠄎 du と結び付く語幹は次のとおり。

014. 𠄎 ABC : 𠄎𠄎 ABCD

注。𠄎 ABC は既出。𠄎𠄎 ABCD の原字の配列につき、B(27-7)は上下とする。なお吳英喆 2007 は𠄎 ri~il 「凭借格」(造格)とする。

015. 𠄎 D : 𠄎𠄎 ABCD

注。『集録』と『彙輯』はともに𠄎 D を皇后の后と積す。『集録』は𠄎𠄎 D(19-10)を后太重熙の太と積す。なお𠄎𠄎 ABCD は語幹に接尾語が付されたものではなく、次項 016 の𠄎𠄎 ABCD のように𠄎𠄎で語幹と解すべきものであろう。

016. 𠄎𠄎 ABCD : 𠄎𠄎𠄎 C

注。𠄎𠄎 ABCD は既出。

017. 𠄎𠄎【𠄎】 CD : 𠄎𠄎【𠄎】𠄎 D

注。𠄎𠄎【𠄎】 CD は既出。原資料によると𠄎𠄎𠄎の𠄎 254 は𠄎 350。

018. 一 : 𠄎𠄎【𠄎】𠄎 C

注。原資料によると𠄎𠄎𠄎 C の𠄎 349 は𠄎 112。長田 1951 は𠄎 349 を楷書体、𠄎 112 を行書体とし同一文字とする。

019. 目 ACD : 目𠄎 AC

注。原資料によると目𠄎 AC の A は𠄎 A(11-11)の誤認。

020. 𠄎𠄎 ABCD : 𠄎𠄎𠄎 D

注。原資料によると A(27-12)の𠄎𠄎の𠄎の字形につき上は𠄎とする。『彙輯』は𠄎𠄎と𠄎𠄎𠄎を共に福と積す。

021. 𠄎𠄎 ABCD : 𠄎𠄎𠄎 D

注。『集録』は𠄎𠄎を𠄎𠄎の𠄎と積す。『彙輯』は𠄎𠄎と𠄎𠄎𠄎を共に𠄎と積す。

022. 令丙刃 ABCD : 令丙刃 𠄎 AB

注. 『集録』は令丙刃を年号の太康と積す。『彙輯』は又-令丙刃を大康、令丙刃を徳・康と積す。

023. 刃乃伏 D : 刃乃伏 𠄎 C

024. 令火及安 D : 令火及安 𠄎 C

注. 『彙輯』は令火及安を吐兒山の吐兒と積す。

025. 公本【𠄎】 𠄎当 CD : 公本【𠄎】 𠄎当【𠄎】 𠄎 D

040. 仕及𠄎 ABCD : 仕及𠄎 𠄎 ACD 付加成分-𠄎-

注. 仕及𠄎 ABCD は既出。原資料によると仕及𠄎 𠄎 ACD とあるが CD に仕及𠄎 𠄎 は無い。『集録』と『彙輯』は共に仕及𠄎 𠄎 を聖と積す。

042. 令中𠄎 ACD : 令中𠄎 𠄎 C

注. 『集録』と『彙輯』は共に令中𠄎を次、歳次の次と積す。

043. 一 : 伏𠄎 𠄎 A

注. 原資料によると、伏●𠄎 A(16-9)の●は𠄎(207)とも𠄎(11)とも見える。『研究』は𠄎(207)とする。結び付く語をみると、D(18-14)に𠄎-伏𠄎 𠄎とあり、A(16-9)も𠄎-伏●𠄎とある。模写資料 A の●は、本来は𠄎(11)であったものが不正確に模写されたものかもしれない。あるいは𠄎(207)と𠄎(11)は異体字であり、●は𠄎(207)として良いものかもしれない。

048. 一 : 尙𠄎 𠄎 AD

055. 刃本【𠄎 and 𠄎】 ABCD : 刃本 𠄎 A

注. 刃本 𠄎 A(31-26)につき『集録』は刃𠄎とし、『研究』は刃𠄎とする。

056. 一 : 𠄎及𠄎 𠄎 C

065. 一 : 列行𠄎 𠄎 CD

069. 𠄎【𠄎】 ABCD : (𠄎【𠄎】 𠄎 A)

注. 𠄎【𠄎】 ABCD は既出。原資料によると𠄎 𠄎 A。

085. 一 : 𠄎𠄎 𠄎 C

091. 一 : 𠄎【𠄎】 𠄎【𠄎】 𠄎 A

注. 原資料によると𠄎(370) 𠄎(21) 𠄎 A(16-14)。

093. 一 : 令𠄎 𠄎 C

095. 一 : 𠄎𠄎 𠄎 C

102. 𠄎𠄎 AC : 𠄎𠄎 𠄎 C

注. 『彙輯』は𠄎𠄎と𠄎𠄎 𠄎を共に誌と積す。

107. 一 : 𠄎𠄎 𠄎 D

108. 一 : 𠄎𠄎 𠄎 C

109. (今卡 B) : 今卡尺 𠄎 ACD

注. (今卡 B)は既出。今卡尺 𠄎 ACD とするが、原資料によると A に今卡尺 𠄎 は無い。

3.4. 「04. 𠄎」

𠄎 と結び付く語幹は次のとおり。

014. 014. 𠄎 ABC : 𠄎 𠄎 ABD

注. 𠄎 ABC は既出。呉英詰 2007 は 𠄎 is を「複数付加成分」(複数語尾)とする。

033. 𠄎【𠄎～𠄎】 ABCD : 𠄎【𠄎】 𠄎 B

注. 𠄎【𠄎～𠄎】 ABCD は既出。原資料によると、𠄎(4) 𠄎 B(17-11)は 𠄎(6) 𠄎 である。

049. 𠄎兩 ABCD : 𠄎兩 𠄎 D

3.5. 「05. 𠄎 da」 と結び付く語幹

𠄎 da と結び付く語幹は次のとおり。

015. 𠄎 D : 𠄎 𠄎【𠄎】 CD

注. 𠄎 D は既出。原資料によると 𠄎 𠄎(254)CD は 𠄎 𠄎(350) である。なお呉英詰 2007 は 𠄎 tu, t'u を「向位格」(与位格)、𠄎 t'u を「複数付加成分」(複数語尾)とする。

021. 𠄎 𠄎 ABCD : 𠄎 𠄎 𠄎【𠄎】 B

注. 原資料によると 𠄎 𠄎 𠄎(254)B は 𠄎 𠄎 𠄎(350) である。『彙輯』は 𠄎 𠄎 𠄎 を 𠄎 と 𠄎 と 𠄎 と 積す。

026. 𠄎 𠄎 CD : 𠄎 𠄎 𠄎 D

069. 𠄎【𠄎】 ABCD : 𠄎【𠄎】 𠄎 C

注. 𠄎【𠄎】 ABCD は既出。原資料によると 𠄎(123) 𠄎 C(14-19)は 𠄎(122) 𠄎 である。

082. 𠄎 𠄎 A : 𠄎 𠄎 𠄎 A

127. 一: 𠄎 𠄎 B

131. 一: 𠄎 𠄎 D

141. 一: 𠄎 𠄎 AC

・・・待続・・・